

News Letter



■2010年3月15日発行 ■発行／三重大学高等教育創造開発センター



教育開発のガイド No.3

GPAの運用例 | Ideas for Utilizing the GPA System

背景とポイント

GPA (Grade Point Average) は、科目ごとに付した4から0の5段階の評点 (grade point, 以下GPという) に、各科目の単位数を重みとして算出した平均のことです。近年では、「成績評価の厳格化」というキーワードとともに、日本の大学でも多く採用されるようになりました。2006年度の時点では、294の大学 (約40%) がGPAを導入しています。

三重大学では、2010年度の前期から全学的に導入することになりました。GPAの運用方法は各部局の裁量に任されていますが、全学的な事項については、News LetterのNo.7 (教育開発のガイドのNo.2) 「GPAの仕組み」で説明をしています。ここでは、各学部・学科でGPAを活用するための参考情報として、他の大学で採用されているGPAの運用例をいくつか紹介します。

GPAを導入するメリット

一般に、GPAを導入するメリットとして、次の点があると考えられています。

学生のメリット

- ◆ 自分の学習の成果を経年的に振り返るひとつの指標を得ることができる。
- ◆ 履修登録に対する責任感を高めることができる。その結果、学習意欲が向上する。(履修登録基準GPA)
- ◆ クラスにおける相対的な位置づけを知ることができる。(クラスGPA)

大学、学部、学科のメリット

- ◆ 学生の学業の遂行状況を、学科レベル、個人レベルの集合体として把握しやすくなる(学科クラスGPA)。
例) 成績が突然低下した学生を発見しやすい。
- ◆ 長期的・総括的な学習成果の評価と、それにもとづく修学指導や措置の根拠として活用することができる。
例) 授業料免除者の決定、成績優秀者の決定、奨学金採用者の決定、学科の分属、大学院受験者の選抜

教員のメリット

- ◆ 自らの評価活動(教育活動)を振り返るひとつの指標を得ることができる。
例) 受講生に、平均としてどのくらいの評価をしたのかを正確に把握することができる。
例) 教員が想定した到達度に学生がどの程度到達したのかを把握しやすくなる。
例) 経年変化を把握することにより、授業改善の成果を測定することができる。

GPAの運用例：教育の質保証

教育の質の保証については、卒業時における質の保証と各学期における質の保証があります。

卒業時における学習の成果を保証するために、「通算GPA2.0以上」などの卒業要件を設定することが考えられます。これは、一部の科目で1というGPを取得しても「平均的にはGPの2に相当する学習成果を修める必要がある」という考えにもとづいています。この考えは、三重大学におけるGPの2の評価基準である「科目内容を修得し、到達目標を概ね満たしている」を質の保証の最低基準として設定することを意味します。

一方、各学期における質の保証として、次のように運用している大学があります。

- ① 「学期GPA」が2.0未満の学生に個別指導をする。
- ② ①の状態が2学期続けば、学生と保護者とアドバイザー(修学カウンセラーを含む)が、次の学期の対策を検討する。
- ③ 3学期連続で「学期GPA」が2.0未満であり、「通算GPA」が2.0未満の場合には、自主退学の勧告をする。

③の状態であっても、すぐに退学の手続きを進めるのではなく、学生や保護者との面談をもとに観察期間を設けたり、退学をする場合にもその後の進路を相談したり再入学の方法について相談したりするなどの対応が考えられます。

アドバイザーによる修学指導

学生の修学を支援するために、アドバイザーを設置することが重要になります。アドバイザーは、学生の履修状況や成績を常に把握し、必要な指導や助言をします。また、履修登録時や登録内容の変更、学生の休学や退学、留学等について指導・助言をしたり、承認をしたりします。

(「アドバイザーによる修学指導」の続き)

履修登録時における指導・助言の主な要点は次のとおりです。

- 各履修科目が各課程の履修基準で定める必修や選択の要件にあっているか。
- すでに単位を修得した科目と重複して登録しようとしていないか。
- クラス指定がある科目には、正しいクラスで登録をしているか。
- 履修登録する単位数がCAP制(履修登録単位数の上限設定)の範囲内であるか。
- 4年間の履修計画にもとづく計画的な履修になっているか。

以上について、学生の成績や修学状況、将来の志望等を考慮した上で履修科目の内容や単位数について踏み込んだ指導をすることが有効です。学生の成績は生活状態を示すひとつの大きな指標となります。GPAの著しい変化、特に、著しい低下があれば、注意を向けることが必要になります。

オフィス・アワーにおける修学指導

学期中の修学指導の機会として、オフィス・アワーがあります。オフィス・アワーは、履修した科目等に関する学生の質問や相談に応じるために、教員が授業時間以外に設定する特定の時間帯を意味します。オフィス・アワーに、学生が気軽に教員を訪問することによって、履修上の問題を解決することが期待されています。

 教員は、オフィス・アワーの時間帯と場所をシラバスやWebサイトに掲載するとともに、積極的に活用するように学生に伝えることが重要になります。そして、オフィス・アワーには、必ず研究室(もしくは指定した場所)に在る必要があります。出張等によってやむなく不在にする場合には、その旨を事前に学生に伝えることが必要になります。

シラバスによる情報提供

学生が事前に科目の内容や課題等を十分に理解した上で履修登録できる環境を整備することも重要です。詳細なシラバスを作成して、科目の内容やスケジュール、課題、成績評価の基準や方法とともに、前述のオフィス・アワーの時

間帯や場所などの情報を事前に伝えます。シラバスに記載する項目については、HEDCのNewsLetterの第4号で紹介しています。ご活用ください。

履修登録期間の延長・履修登録取消し制度

学生が一定期間の履修をした上で登録の有無を決められるシステムを整備することも重要です。北海道教育大学では、履修登録期間を4週間に設定しています。北海道大学では、期末試験に近い時期(6月や12月)に、履修登録した選択科目(選択必修科目及び履修学期が指定されていない必修科目を含む)を取り消すことができる「履修取消し制度」を導入しています。

CAP制(履修登録単位数の上限設定)の導入

多過ぎる科目を履修登録することによって、単位あたりの学習時間を十分に確保できないという問題があります。これを解決するひとつの手段として、1学期に履修登録できる単位数の上限を設定するCAP制があります。CAP制について、学生がその意図を正確に把握しなければ、学習意欲の減退につながる可能性があります。導入する場合には、その趣旨をよく説明してください。

単位制度の原則に従えば、1単位あたり45時間の教室内外の学習時間を必要とする内容が標準です。この45時間は1週間分の学習時間を想定しています。

8時間×5日(月～金曜日)+5時間(土曜日)
これをもとに考えると、各学期の上限は15単位となります。

その一方で、この原則の倍以上の単位を履修登録している学生がいるという現状もあります。多くの大学では、単位制度の原則を意識しながら、その実状も視野に入れて上限を設定していると考えられます。北海道大学では、初年次の履修登録の上限を多くの学部で21単位(法学部は22単位、工学部や水産学部等は23単位などの例外あり)に設定しています。また、学生が取得した直前の「学期GPA」によって履修登録できる単位数の上限を変更している大学もあります。北海道教育大学では、1学期あたり26単位を登録の上限としていますが、次のような対応をしています。

GPAが3.0以上の場合	30単位
GPAが2.5以上3.0未満の場合	28単位
GPAが1.5以上2.5未満の場合	26単位
GPAが1.5未満の場合	24単位

GPAの運用について、もっと知るためには…

- ◆ 加藤勝康「GPAと質の保証:青森公立大学の場合」『IDE』No.449(成績評価と質の保証), 2003.5, p.41-46.
- ◆ 絹川正吉「ミニマムリクワイアメントの本質」『IDE』No.449(成績評価と質の保証), 2003.5, p.5-11.
- ◆ 同志社大学『平成18年度 文部科学省特色ある大学教育支援プログラム:情報環境の整備と成績評価の厳格化ー学習支援システムDUETとGPA得点分布公表』2009.3, 248p.〔[附属図書館に所蔵あり](#)〕
- ◆ 北海道大学高等教育機能開発創造センター『平成15～18年度 特色ある大学教育支援プログラム:進化するコアカリキュラムー北海道大学の教養教育とそのシステムー』2007.3, 175p. [http://educate.academic.hokudai.ac.jp/neouniv2/html/houkoku.htm] (2010.2.22.採取)